

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

石川県

（地域における現状・課題）

〔現状〕

・週2日部活動の休日を設け、部活動指導員や外部指導員を確保し、教員の負担軽減を図っている。今後も外部の指導者を確保していきたいが、現状では、人材の確保が難しく、外部指導者もどの程度まで続けてもらえるか分からないため、持続可能性に乏しい。・教職員の多忙化改善と生徒のスポーツ環境の充実を両立させることは課題や問題も多い。これから先、今まで通りの部活動では持続が難しくなってくると思われるため、現状の課題を明確化しておく必要がある。

〔課題〕

・各学校の部活動と地域部活動の指導法や練習内容などの違いによる、学校、地域部活動指導者、保護者との連携。・受け皿となる団体、指導者の確保。・複数校で活動する際、他校の生徒や地域の指導者と活動することに苦手意識を感じる生徒への対応。・地域人材の確保及び受け入れ体制の整備。平日・休日の一貫した指導のための連携・協力体制の構築

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

●普及・啓発、広報の展開

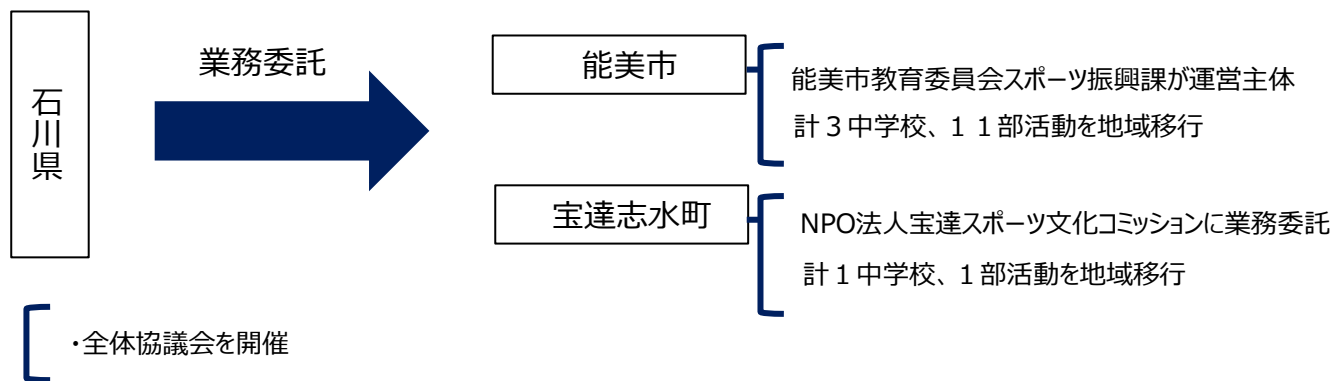
- ・令和4年度中に3回の全体協議会を実施。（市町担当部局のみならず、他部局の参加を検討）
- ・他部局（スポーツ振興課、体育協会等）の協議会や会議の中で事業説明を行う

●連絡調整体制の構築

- ・庁内他部局（スポーツ振興課）との定期的な情報交換、情報共有

（実践研究の成果）

・年3回の全体協議会を通して、今年度実践研究に取り組んでいただいた能美市、宝達志水町の実践や国が発出した「総合的なガイドライン」等の資料、令和5年度全国大会における地域スポーツ団体等の大会参加についてなど、多くの事項について、市町学校教育担当のみならず、スポーツ担当部局にも広く周知することができた。特に、実践研究に取り組んだ能美市、宝達志水町からは、取組から得られたすべてを成果と捉え、他の市町に情報提供いただいたことで、各市町にとっても今後の地域移行に向けて貴重な情報になったと思われる。



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

能美市

（地域における現状・課題）

- ・学校の部活動と地域部活動の指導法や練習内容などの違いによる、学校、地域部活動指導者、保護者との連携。
- ・複数校で活動するため、他校の生徒や地域の指導者と活動することに苦手意識を感じる生徒への対応。
- ・ケガ、事故等が起こったときの責任所在の明確化、連絡体制の構築。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：能美市体育協会（各競技協会）

活動場所：市内体育館、ソフトボール場、陸上競技場、中学校体育館

指導者：部活動指導員、地域指導者

移動手段：徒歩、自転車、保護者による送迎

責任主体：能美市体育協会（各競技協会）、能美市教育委員会

活動種目：ソフトボール、ハンドボール、陸上競技

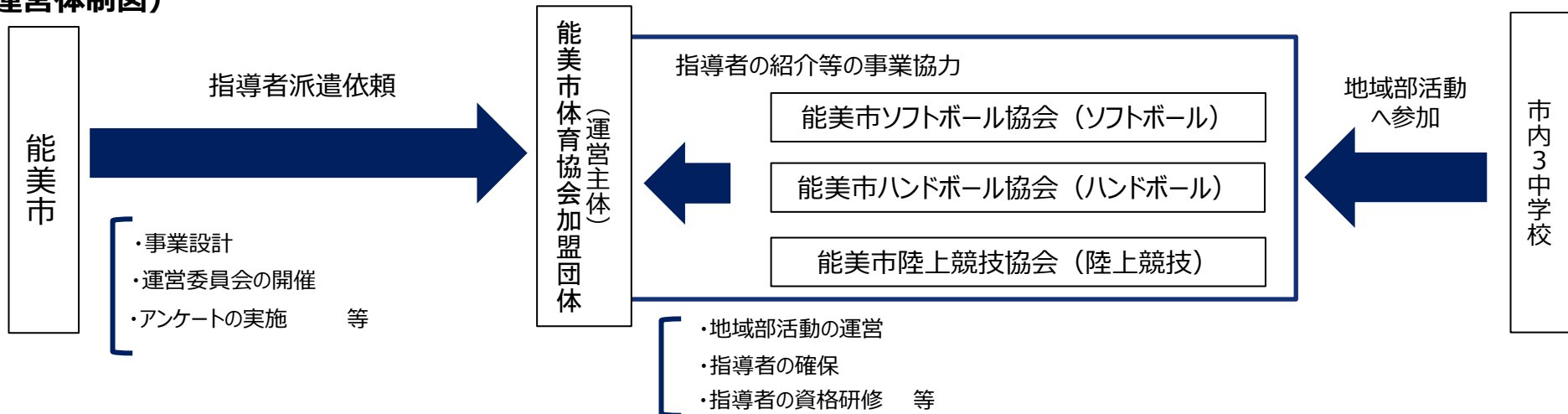
会費等：1,000円（ソフトボールのみ徴収、ほかは会費なし）

保険：スポーツ安全保険に加入

（実践研究の成果）

- ・今年度、地域部活動の受け皿となる組織や仕組みづくりを検討し、来年度以降に能美市ふるさと振興公社と業務委託を行い、地域移行を推進。
- ・陸上競技で、休日の部活動への移行を実施。
- ・保護者、生徒への部活動の地域移行に対する説明が不足しているため、学校との協力体制を強化し、窓口を学校担当部署へ一本化。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

宝達志水町

（地域における現状・課題）

現状：少子化により生徒数の減少が続いており、複数の部活動では存続が厳しく、今後の入部者数次第では休部もしくは廃部の可能性に迫られている。人数不足による活動の制限や専門的指導のできる教員の不足により、充実したスポーツ環境の提供が難しい。教員の業務が複雑化・多様化している中で、部活動の指導に時間を取られ、本来携わるべき業務に専念できてない。

課題：地域人材の確保及び受け入れ体制の整備、平日・休日の一貫した指導のための連携・協力体制の構築

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：NPO法人宝達スポーツ文化コミッション

活動場所：宝達志水総合体育館テニスコート

指導者：地域指導者

移動手段：徒歩、自転車、親の送迎

責任主体：宝達志水町教育委員会

活動種目：ソフトテニス

会費等：0円

保険：子ども800円/人 指導者1,850円/人（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

地域部活動としての活動を計32回行うことができ、生徒・保護者から専門の指導者に教えてもらったことで上手くなった、充実した活動を行えた等の肯定的な意見があった。実践研究の実施により、顧問教諭の時間外勤務（休日3時間）の削減につながっただけでなく、「以前は専門的な指導ができず子どもの力を上手く伸ばすことができなかったが、地域の専門的な指導者に代わってもらえたことで精神的に楽になったし、子どもにとってありがたいものだと感じた」との意見をもらい、心身ともに負担が軽減したことが窺える。

（運営体制図）

